

友情に国境はない

首都医科大学学生代表

見学日時：2018年6月4日（月）12:00-13:30

見学場所：日比谷松本楼

見学概要

私たち訪日代表団一行は6月4日昼に日比谷公園内の松本楼を訪れた。日比谷公園は銀座から近く、その周囲は高層ビルが立ち並び、公園内の多くの樹木の陰にひっそりと佇む松本楼は、まるで都会の中のオアシスの様相を呈していた。松本楼にて私たちは優雅な昼食をとり、その後梅屋庄吉氏の曾孫である小坂文乃女史からの100年以上前の孫文氏と梅屋庄吉氏との国境を越えた友情についてのお話を拝聴した。

なぜですか？

問:ホールに置かれたこのピアノにはどのような物語があるのか？

答:このピアノは梅屋庄吉氏が自身の娘のために買ったものである。宋慶齡女史はピアノの演奏がとても好きで、日本滞在期間中はいつもこのピアノで演奏をしていた。その後ピアノを松本楼のホールに展示した。



問:梅屋庄吉氏はどのようにして孫文氏と出会ったのか？

答:梅屋庄吉氏は孫文氏と香港で出会った。革命を目指す両氏は出会ってすぐ意気投合し、その後義兄弟の契りを交わした。

感想

日比谷松本楼において私たちは国境を越えた一つの友情を目にした。「君は兵を挙げたまえ、我は財を挙げて支援す」、この誓いが梅屋庄吉氏と孫文氏の友情を形成した。写真館の経営や映画事業を通じて財を成した梅屋庄吉氏は、武器や飛行機の購入、パイロットの訓練など孫文氏の革命事業のために非常に多くの貢献をした。

私たちが感心するのは両氏の心の広さである。あの激動の時代の中、相手の国籍や出身を問わず互いに理解し合い、最後には同じ目標のために奮闘そして努力をしたのである。それは100年以上前であれ現在であれ、極めて貴いものである。

「抗戦の歴史を心に刻むことは民族間の憎しみを継続するためではなく、すべての人が平和の使命を担っていることを常に肝に銘じ、これまで以上に平和を大切にし、維持し、守り、平和発展の道を歩んでいくためである」、習近平総書記は反ファシズム勝利70周年式典のスピーチにおいてこのように述べている。私たちは梅屋庄吉氏や孫文氏に倣い、広い心を持ち日中関係に向き合わねばならず、わずか50年の対立によって千年以上続いてきた友情を失ってはならない。

私たちは日中平和友好条約締結40周年の折に日本を訪れ、日本の企業や大学と交流を図った。これは一種の「国境を越えた友情」ではないだろうか？ 私たちは今回の交流における収穫を中国に持ち帰り、多くの人に真の日本について伝えるなど、日中関係の緩和や両国間の誤解の解消に尽力したいと思う。